

掛 袱 紗

— 祝う心を模様にたくす

東京国立博物館 本館14室
平成28年12月20日(火)～平成29年2月19日(日)

1. 紋紗 紹織子地貝桶模様
江戸時代 19世紀
Fukusa, Design of boxes for shell-game pieces on dark blue satin ground
Edo period, 19th century I-3787-2



掛 袱 紗 とは……

袱、紗といえば、茶道で使う紫や紅色の精緻な織物で出来た、二〇センチメートル四方の袋を思い浮かべることでしょう。もともと「ふくさ」という言葉には「物がやわらかである」「人柄が柔軟である」という意味があります。袱紗に当たられた文字には、
袱——物の上にびたりと被せて包む覆
紗——細い糸で織った軽くて薄い紡織物
という意味があります。つまり、袱紗とは大切な物を守るために包んだり、埃が被らないように覆つたりする袋のことであり、輪子や綿襪といった柔らかい紡織物で作られています。風呂敷と違つて裏が付いた格仕立てになっています。風呂

Fukusa Covers: Representing Celebratory Spirit

Tokyo National Museum, Honkan Room 14

Tuesday, December 20, 2016 – Sunday, February 19, 2017



2. 紋紗 相輪子地鯛模様 江戸時代 18-19世紀
Fukusa, Sea bream design on dark blue satin ground
Edo period, 18th-19th century I-3787-3

Fukusa were used to cover gifts presented at celebrations. Traditional Japanese designs were chosen for each occasion, such as New Year's greetings, seasonal celebrations, greetings exchanged in summer and at the end of the year, weddings, or celebrations for long life. It was from the early to mid-Edo period, in the 17th to the early 18th century, that *fukusa* came to be ornately decorated. As unique Japanese embroidery techniques developed, auspicious motifs befitting each event began to be embroidered on the *fukusa* covers. Eventually, from the late 18th century in the late Edo period, the custom of *fukusa* covers spread to prosperous townspeople. Unlike the stylized patterns used by the higher warrior class, the townspeople chose motifs from popular fables, or patternized motifs from everyday life, for their liberal designs. By this time, *fukusa* were not only rendered with embroidery but also with techniques suitable for pictorial renderings, including yuzen paste-resist dyeing, as well as tapestry weaving. The designs convey the festive spirits of people in the Edo period.

To celebrate the New Year, *fukusa* from the Edo period in the museum collection are introduced through four themes in this exhibition: "Stories and fables," "Good-luck motifs," "Warrior-class motifs," and "Deities and festivities." These motifs will introduce you to the visual expression arising from the celebratory spirit of the people from this time.

包

平安時代の昔から上流階級の人びとのあいだで使われていましたが、鎌倉時代には贈り物の上に掛けて渡すことが、武家のあいだで儀礼化するようになりました。贈り物の上に掛けることから「掛袱紗」と言います。江戸時代には有職故実を伝える小笠原家や伊勢家で、それぞれの礼儀作法が示され、贈り物を載せた広蓋や折敷、牡丹餅(御萩)や粽といったお祝いの食物を入れた重箱の上に掛けて贈られました。そ

ういった贈り物は結納や結婚、賀の祝(長寿の祝い)や節供祝、年末年始のあいさつなどに遣り取りされます。そこで、江戸時代前期頃から、刺繡で吉祥模様をあらわした美しい掛け袱紗が武家のあいだで用いられるようになりました。奈良の興福院には、徳川第五代將軍綱吉(一六四六~一七〇九)が側室・瑞春院(一六五八~一七三八)に贈った美麗な刺繡の吉祥模様を施した掛け袱紗が三十一枚も遺されています。

祝の行事と模様

結納・結婚

—末長い夫婦の仲と子宝を願う

日本では、婚約の証にお互いが贈り物を交換します。また、結婚の際には、親戚や知り合いからお祝いの品が贈られます。結婚祝の掛け袱紗には、夫婦和合を願う貝合わせ(貝桶)や雌雄の鳥、子宝を願う貝合わせ(貝桶)が表されました。



4. 袱紗 淡葱繡子地騎馬人物図 江戸時代 18~19世紀
Fukusa, Equestrian figure design on light blue satin ground
Edo period, 18th~19th century I-3787-7



8. 袱紗 紅絹繡地桜滝鯉模様(部分)
江戸時代 19世紀
Fukusa, Cherry blossom, waterfall, and carp design on red crepe ground
Edo period, 19th century I-2742

子どもの出世を祈る鯉の模様。中国の黄河にある龍門と呼ばれる急流を登った鯉は、龍になると信じられていました。

節供

—厄払い、幸せを招く



7. 袱紗 獅々図(部分) 江戸時代 18~19世紀
Fukusa, Shōjo immortal figure design Edo period, 18th~19th century I-3787-8

もともとは中国の陰陽道からくる風習です。古代中国では奇数が嫌われ、奇数が並ぶ日は不吉とされていました。そこで、「厄」を払うため上巳(三月三日)、端午(五月五日)、七夕(七月七日)、重陽(九月九日)には、厄払いの行事が行なわれました。

賀の祝

—長寿を願う



6. 袱紗 櫛色縮緬地松梅鶴鳩模様(部分)
江戸時代 19世紀
Fukusa, Pine, plum blossom, and mandarin duck design on light green crepe ground
Edo period, 19th century I-4316

「鶴鳩夫婦」と呼ばれるように、夫婦仲がよい鳥として知られています。



9. 袱紗 茶緞子地住吉踊模様(部分)
江戸時代 19世紀
Fukusa, Sumiyoshi dance design on brown dousu damask ground
Edo period, 19th century I-3566

華やかに飾った傘のまわりを歌い踊ります。

年中行事

—正月、祭

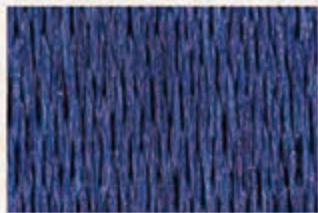
お正月の模様には、ご来光(日の出)、門松などがあります。お祭りもおめでたい模様として表われます。「住吉舞」の模様は、大阪、住吉神社の御田植神事に行なわれる踊りの様子を表わしています。

絹紗を美しくする裂と染織技法

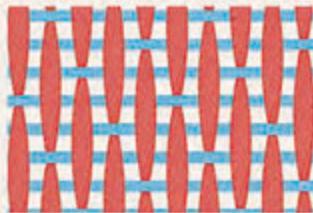
裂

Fabric

絹紗の表地に使われる組織物



織子
Satin



織子の組織図
Thread crossing pattern of satin



繪子
Figured satin

例えば、日本で一番よく使われている絹五枚織子ですと、経糸が緯糸4本分浮き越して1本分下に沈むという織り方を繰り返します。表面に絹の艶が出て光沢が美しい織物です。欧米ではサテンと言います。



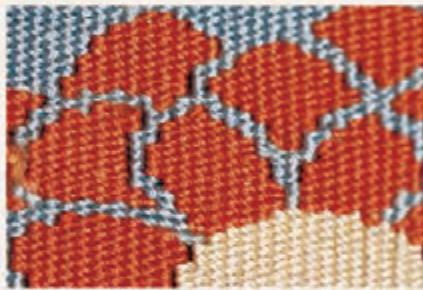
縮緬
Crepe

地を絹五枚織子で織り緯五枚織子で模様を織り出した織物です。日本では、紗綾形(正形)に蘭菊の折り枝模様が織り出されることが伝統的です。

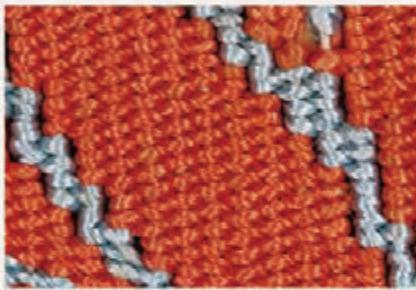
織

Weaving

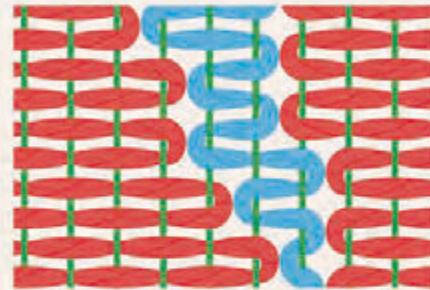
絹紗の模様を織り出すには、絵のような図案を織ることができる技術の発達がありました



織織
Tapestry weave



紅糸と浅葱糸との間にできた「把釣孔」
Loop holes formed between red and light green threads



織織の組織図
Thread crossing pattern of figured brocade

絹糸に太い緯糸の色を変えることで模様を表わした平織の織物です。模様に沿って緯糸が折り返されるため、折り返し部分に「把釣孔」と呼ばれる隙間があります。

繡

Embroidery

江戸時代、和刺繡は飛躍的に発達しました。さまざまな技法の組み合わせによって、立体感や風合いを表現します



におい(花のしべ)
Nioi Pistil Stitch



平繡による唇の表現
Satin Stitch



縫い繡
Outline Stitch



相良繡(玉繡)
Seed Stitch/Knot Stitch



刺し繡
Long and Short Stitch



駒繡(駒留)
Couching Stitch



平繡・駒留
Satin Stitch and Couching Stitch



留繡
Overlay Stitch

花びらを平繡で、花芯を片撚糸の駒留で刺繡しています。

平繡の上を、浮いた糸を留めるように模様を表わしながら刺繡しています。